

吉備路に最多1万9855人

吉備路を彩る豪華ゲストランナー 今年の注目はコレ!

今大会最も注目されたのは、埼玉県庁の公務員ランナー川内優輝選手と、今年の箱根駅伝3区で区間賞を獲得した「湘南の神」こと青山学院大学秋山雄飛選手のハーフマラソンへの参戦。この2人に、昨年の覇者で高校生国内最高新記録を樹立している倉敷高校のジョエルムアウラ選手を加え、ハイレベルな陸連登録者男子の部として注目されました。

結果は、ムアウラ選手が1時間2分17秒で2連覇を達成。川内選手は2分遅れの1時間4分52秒、続いて秋山選手が1時間6分53秒でフィニッシュしました。

ゲストランナーとして10km陸連登録者女子の部に、天満屋女子陸上競技部のホープ、西脇舞選手が出場。昨年京都府で行われた全国高校駅伝で都大路を制した倉敷高校陸上競技部、同大会出場の興譲館高校陸上競技部、さらに伊原木隆太知事らの快走が吉備路を彩りました。



最強ムラサキランナー
川内優輝

箱根駅伝3区区間賞「湘南の神」
秋山雄飛

箱根駅伝3区区間賞「湘南の神」



早春の吉備路を満喫



震災からの復興と、マラソンで連携協定を結ぶ仙台市との絆

そうじゃ吉備路マラソンと仙台国際ハーフマラソンが連携協定を結んでいる縁から、毎年、仙台市の中学生をそうじゃ吉備路マラソンに招待しています。今年は、仙台市立高砂中学校の庄司翼さん、米山卓都さん、村上明優里さん、金子真望さんの4人を5kmに招待。選手宣誓も務め、「震災復興の想いと総社の皆さんへの感謝の気持ちを込めた精一杯の走りで、ゴールすることを誓います」と力強く宣誓してくれました。

また、仙台市の藤本章副市長にフルマラソンとハーフマラソンのスターターを務めていただきました。



パワフルなghostnoteのライブで幕開け

オープニングは総社ゆかりのロックバンド「ghostnote」のライブ。スタート地点に設けられたトラックステージで、大会テーマソングを熱唱してくれました。4人は5kmにも出走しました。



そうじゃ吉備路マラソンが2月26日、総社市スポーツセンター周辺を発着点に開催され、1万9855人のランナーが早春の吉備路を駆け抜けました。

今大会もフルマラソン、大黒天物産コース（ハーフマラソン）、フレヴァンコース（10km）、もつと自分らしく☆キャリアアプランニングコース（5km）、おいしいそうじゃ！モンテールコース（3km）、カラダにピース☆「カルピス」ファミリコース（1.5km）とリブツクくんわくわくファミリコース（800m）の5種目2イベントで開催。絶好のマラソン日和のこの日、ランナーは歴史口マン溢れるコースの景色を堪能しながら、沿道からの温かい声援を受け、それぞれの吉備路マラソンを快走していました。

また、駐車場や沿道警備、会場内サービスなど、大会を支えるボランティアとして、市内外から過去最高となる2087人に協力していただきました。ランナーとボランティア、市民が一体となり、みんなで作りに上げたそうじゃ吉備路マラソン。次回は2月25日（日）の開催予定です。多数の参加をお待ちします。

問い合わせ そうじゃ吉備路マラソン推進室（☎08375）

SOJA Kibiji Marathon